

みずほマーケット・トピック(2024年1月12日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は、円売り相場の中、米インフレ統計の上振れも相まって上昇した。週初8日、144.77円でオープンしたドル/円は、軟調なアジア株式市場を横目に144円台前半へじり安。海外時間は、米12月NY連銀調査の1年先期待インフレ率が低水準となったことを受け、米金利低下とともに一時143円台後半に続落した。9日、ドル/円は日本株の弱い推移を背景に一時143円台半ばに下落した。海外時間は、米金利は方向感なく推移も、ドル買い相場の中で144円台半ばに反転上昇した。10日、ドル/円は本邦11月毎月勤労統計の弱い結果を受け、円金利が低下する流れなどに合わせ145円を目指す展開。海外時間は、米10年債入札の軟調な結果や、ウィリアムズ・NY連銀総裁のタカ派な発言を受け、米金利上昇につれる格好で146円を目指す上昇した。11日、ドル/円は米金利低下を受け、145円台半ばへじり安。海外時間は、米12月消費者物価指数(CPI)が市場予想を上回ると、米金利上昇につれて一時週高値となる146.41円に急伸。もっとも、その後はバーキン・リッチモンド連銀総裁のややハト派な発言などもあり、米金利が低下に転じ、145円台前半に反落した。本日のドル/円は、引き続き145円台前半での取引となっている。
- 今週のユーロ/ドルは、独金利の動向につられ上昇した。週初8日、1.0942でオープンしたユーロ/ドルは、NY時間の米金利低下が下支えとなり、1.09台後半に上昇した。9日、ユーロ/ドルは独11月鉱工業生産の弱い結果やセンチノ・ポルトガル中銀総裁のハト派な発言が嫌気される中、一時週安値となる1.0911に下落した。10日、ユーロ/ドルはシュナーベル・ECB専務理事のタカ派な発言を受け、独金利が上昇する流れにつれ、1.09台後半を回復した。11日、ユーロ/ドルは、独金利上昇を受け一時週高値となる1.10ちょうどに上昇する場面もあったが、その後は米金利の上下に振られる展開となった。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.09台後半での取引となっている。

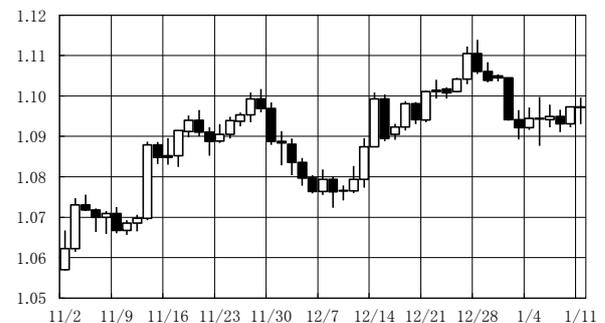
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末		今 週			
		1/5(Fri)	1/8(Mon)	1/9(Tue)	1/10(Wed)	1/11(Thu)	
ドル/円	東京9:00	144.76	144.77	144.22	144.43	145.74	
	High	145.98	144.90	144.62	145.83	146.41	
	Low	143.81	143.67	143.43	144.33	145.00	
	NY 17:00	144.61	144.23	144.47	145.78	145.26	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0946	1.0942	1.0950	1.0934	1.0975	
	High	1.0998	1.0979	1.0965	1.0973	1.1000	
	Low	1.0877	1.0922	1.0911	1.0923	1.0930	
	NY 17:00	1.0940	1.0950	1.0931	1.0972	1.0973	
ユーロ/円	東京9:00	158.47	158.39	157.94	157.90	159.90	
	High	158.97	158.46	158.00	159.95	160.18	
	Low	158.06	157.72	157.25	157.84	159.39	
	NY 17:00	158.31	157.91	157.94	159.95	159.39	
日経平均株価	33,377.42	-	33,763.18	34,441.72	35,049.86		
TOPIX	2,393.54	-	2,413.09	2,444.48	2,482.87		
NYダウ工業株30種平均	37,466.11	37,683.01	37,525.16	37,695.73	37,711.02		
NASDAQ	14,524.07	14,843.77	14,857.71	14,969.65	14,970.19		
日本10年債	0.60%	-	0.58%	0.58%	0.60%		
米国10年債	4.05%	4.03%	4.01%	4.03%	3.97%		
原油価格(WTI)	73.81	70.77	72.24	71.37	72.02		
金(NY)	2,049.80	2,033.50	2,033.00	2,027.80	2,019.20		

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、17日(水)にベージュブックが公表予定となっている。11月29日に公表された前回分では、経済活動に関しては「前回報告から減速」としており、それまでの表現から下方修正した。12月FOMCでは、スタッフ経済見通しにおいて、23年の実質GDP成長率は9月時点から大きく上方修正されたものの、24年に関してはむしろ下方修正された。23年10～12月期以降の景気見通しを弱めた内容であり、パウエルFRB議長がややハト派な情報発信を行った背景の1つとも考えられる。片や、雇用や物価情勢は勢いが鈍化したと報告したが、特に物価は「高止まり」との表現が用いられており、物価目標の達成を確信できる状況ではない。12月会合以降は、相対的にタカ派な発言を行うFRB高官が多かったが、やはり一時市場で織り込まれた、24年における6～7回の利下げは行き過ぎだった可能性が高い。
- 本邦では、19日(金)に12月消費者物価指数(CPI)が発表される。コアCPI(生鮮食品除く)に関し、11月の結果は+2.5%(前年比、以下同様)と市場予想と一致し、10月の+2.9%から減速した。資源価格下落などを反映し、22年7月以来の低い伸びに落ち着いた。内訳を確認すると、生鮮食品を除く食料(+7.6%→+6.7%)や生鮮食品を除く財(+3.6%→+2.7%)など、食料や財ではデフインフレが広がった。一方で、サービスは+2.3%と98年3月以来の高水準となっており、インバウンド需要や人手不足に伴う賃上げの影響が大きそうだ。また、食料(酒類を除く)およびエネルギーを除いたコアコアCPIは+3.8%と3月以来の低い水準となった。なお、ブルームバーグの事前予想では、12月の結果を総合ベースでは+2.5%、コアベースでは+2.3%と見込んでいる。

	本 邦	海 外
1月12日(金)	・11月経常収支 ・12月景気ウォッチャー調査	・米12月生産者物価指数
15日(月)	・12月工作機械受注(速報)	・ユーロ圏11月鉱工業生産 ・世界経済フォーラム年次総会(19日まで)
16日(火)	・12月国内企業物価指数	・独12月消費者物価指数(確報) ・独1月ZEW景気期待指数 ・米1月NY連銀製造業景気指数
17日(水)	—————	・ユーロ圏12月消費者物価指数(確報) ・米12月小売売上高 ・米12月鉱工業生産 ・米ベージュブック公表
18日(木)	・11月コア機械受注 ・11月鉱工業生産(確報) ・11月設備稼働率	・ユーロ圏11月ECB経常収支 ・ユーロ圏ECB政策理事会議事要旨(12月会合分) ・米12月建設許可/住宅着工件数
19日(金)	・12月消費者物価指数	・独12月生産者物価指数 ・米1月ミシガン大学消費者マインド(速報) ・米12月中古住宅販売件数

【当面の主要行事日程(2024年1月～)】

日銀金融政策決定会合(1月22～23日、3月18～19日、4月25～26日)

ECB政策理事会(1月25日、3月7日、4月11日)

FOMC(1月30～31日、3月19日～3月20日、4月30日～5月1日)

金融市場部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2024年1月11日	ユーロ圏インフレ率の近況～再浮揚の読み方～
2024年1月10日	震災と旅行収支の関係について～2011年からの教訓～
2024年1月9日	米大統領選挙の考え方～メインシナリオを覆すか～
2024年1月5日	週末版(能登半島地震の影響について～構造変化を経て「普通の通貨」になった円～)
2024年1月4日	24年、持つべきイメージは「長期円安局面の小休止」
2023年12月22日	週末版(本邦の家計金融資産動向について～外貨性資産比率は「根雪」のイメージで～)
2023年12月20日	日銀金融政策決定会合～解除時期と円相場への影響～
2023年12月18日	2024年、円需給の考え方～円転率や貿易収支が課題～
2023年12月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「利上げ→利下げ」の考え方～)
2023年12月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年11月分)
	FOMCを終えて～突然変わった節目、日銀への影響も～
2023年12月13日	最近の需給環境について～24年も脆弱性は残る～
2023年12月12日	12月日銀会合の行方～政治的観点、2000年との比較～
2023年12月11日	24年ドル/円見通し外観～「主戦場の変化」を確認する年～
2023年12月8日	週末版(円高と植田発言の読み方～チャレンジングの真意～)
2023年12月7日	ECB、シュナーベル発言の読み方～拡大解釈を警戒～
2023年12月6日	対内直接投資の胎動と今後への展望
2023年12月4日	24年、円高シナリオの鮮度～130円割れはあれど～
2023年12月1日	週末版(ユーロ圏11月消費者物価指数の読み方～「最後の砦」となるサービス業～)
2023年11月28日	ユーロ圏経済とECB金融政策の現状と展望
2023年11月24日	週末版(貿易赤字国が迎える米利下げ～通貨高は当たり前ではない～)
2023年11月21日	円高とPPPの考え方～収斂するのか、しないのか～
2023年11月20日	過去最安値に肉薄する円の名目実効相場(NEER)
2023年11月17日	週末版(本邦10月貿易統計を受けて～繰り返される23年と同じ言説～)
2023年11月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年10月分)
	1年ぶり2度目のCPIショックをどう評価すべきか
2023年11月14日	ユーロ/円、15年ぶりの高値をどう理解すべきか
2023年11月13日	24年は「家計の円売り」元年になるか～外貨資産の現状～
2023年11月10日	週末版(23年度上期経常収支の読み方～CFベースの黒字は10分の1に～)
2023年11月9日	「欧州の病人」は戻って来たのか?～企業の「ドイツ離れ」～
2023年11月2日	週末版
2023年10月30日	150円台定着を受けて～その背景と今後の論点整理～
2023年10月27日	週末版(ECB政策理事会を終えて～再投資停止を阻むイタリア国債利回りの上昇～)
2023年10月26日	ECBプレビュー～利上げ代替としてのMRR引き上げ～
2023年10月23日	サービス収支に透ける製造業の行動変化
2023年10月20日	週末版
2023年10月19日	本邦9月貿易統計～起きるべくして起きた23年の円安～
2023年10月18日	再び直面する天然ガリスク～ユーロ安考察～
2023年10月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年9月分)
2023年10月13日	週末版(日独GDP逆転について～「弱い円」が原因としても・・・)
2023年10月12日	カネ関連収支でも広がるサービス赤字
2023年10月11日	赤字が広がるデジタル関連およびカネ関連の国際取引
2023年10月10日	円安シナリオを延命させる中東リスク
2023年10月6日	週末版
2023年10月5日	「底打ち懸念」も漂う米経済～米金利上昇の考え方～
2023年10月4日	続・インフレを輸入する日本～「人手不足」の波～
2023年10月3日	ユーロ圏のインフレ情勢とECBの「次の一手」について
2023年10月2日	インフレを輸入する日本～インフレ持続性の考え方～
2023年9月29日	週末版
2023年9月26日	円安シナリオを長続きさせる貿易赤字
2023年9月25日	日銀金融政策決定会合～マイナス金利解除の行方～
2023年9月22日	週末版
2023年9月21日	FOMCを終えて～「2024こそ利下げの年」という危うさ～
2023年9月20日	23年4～6月期資金循環統計～「貯蓄から投資」の胎動～
2023年9月19日	「欧州の病人」は戻って来たのか?
2023年9月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「事実上の利上げ停止宣言」の読み方～)
2023年9月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年8月分)
2023年9月13日	ECB政策理事会プレビュー～「見送り+α」の公算～
2023年9月12日	日銀の政策運営に関するQ&A～読売報道を受けて～
2023年9月11日	7月国際収支の読み方～為替需給変わらず～
2023年9月8日	週末版
2023年9月7日	日本の貿易収支が直面する2つの想定外
2023年9月6日	海外出張で体感した内外価格差について
2023年9月4日	BRICS共通通貨は「いつか来た道」
2023年9月1日	週末版(ECB政策理事会議事要旨と8月消費者物価指数について～9月利上げの行方～)
2023年8月30日	夏を終えても変わらなかった円の独歩安
2023年8月28日	ジャクソンホールで浮き彫りになるインフレに対する「当事者」感
2023年8月25日	週末版
2023年8月24日	ユーロ圏経済の悪化とユーロ相場の現状
2023年8月23日	なぜ購買力平価は使えなくなっているのか
2023年8月22日	力強さが続くユーロ圏の雇用・賃金情勢
2023年8月21日	「持たざるリスク」に直面する日本の家計部門
2023年8月18日	週末版(本邦7月貿易収支を受けて～中国不振が阻害する収支改善～)
2023年8月17日	本邦4～6月期GDPの読み方～冴えない内需～
2023年8月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年7月分)
	年初来安値で確認する円の立ち現在地
2023年8月14日	再投資柔軟化から1年～フランスに並んだイタリア～
2023年8月10日	週末版(アマゾン「プライム」値上げの意味するもの～デジタルサービスへの外貨流出～)
2023年8月9日	緩和持続を約束する実質賃金の低迷～円安の余韻～
2023年8月8日	23年上半期の国際収支統計を受けて～CFベースでは赤字～
2023年8月7日	マイナス金利解除の実現可能性～日銀に迫る円売りゲーム～
2023年8月4日	週末版
2023年8月2日	ユーロ圏経済の近況～経済・物価情勢はECBハト派化を示唆～
2023年7月31日	日銀会合を終えて～今後の課題は「円売りによる挑発」～
2023年7月28日	週末版(ECB政策理事会を終えて～急速に薄らいだタカ力色～)
2023年7月27日	FOMC(7月25～26日)を終えて～現状維持に備え～
2023年7月25日	日銀金融政策決定会合(7月27～28日)プレビュー
2023年7月21日	週末版(正常化が近づくとインバウンド需要～労働で稼いだ外貨はどこへ行くのか・・・)
2023年7月20日	23年上半期の貿易収支を受けて～構造変化を直視～
2023年7月19日	残る円安・資源高の余波～物価「変化率」だけでなく「水準」も～
2023年7月18日	ICEDドルインデックスの100割れをどう読むべきか?
2023年7月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年6月分)
	週末版